
2008 年度冬学期 第 8 回 物性セミナー

「弦の場の理論の解析解」

講師 大川 祐司 氏 (東大総合文化・駒場素粒子論研究室)

日時 2009 年 2 月 13 日 (金) 午後 4 時 30 分 ~

場所 16 号館 827

弦理論は一般相対性理論と量子力学をひとつの枠組みの中で矛盾なく記述するための重要な手がかりを与えると期待されている理論ですが、摂動的にしか定式化されていません。弦の場の理論は弦理論の非摂動的定式化に対するひとつのアプローチで、特に Witten によって構成された弦の場の理論は、そのほかのアプローチと相補的な役割を果たしながら非摂動効果の解析に寄与してきました。1986 年に Witten が理論を構成してから約 20 年を経た 2005 年 11 月、Schnabl によって初めて運動方程式の解析解が構成され、弦の場の理論の解析的手法が大きく進展しています。このセミナーでは、弦理論を専門とされていない方々を対象とした Witten の弦の場の理論の解説から始めて、この数年間で新たにどのような問題が解けるようになってきたのかを説明し、研究現場の興奮をお伝えできればと思っています。

○今後の予定：

今回で冬学期の物性セミナーは終了です。次回は来年度 4 月の下旬に再開する予定です。

○物性セミナーのページ：

「駒場 物性セミナー」で検索!

<http://huku.c.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/FSwiki/wiki.cgi/BusseiSeminar>

○物性セミナー世話人： 加藤雄介，福島孝治，簀口友紀，堺 和光，猪野和住

問い合わせ先 (福島) ex. 46513